

第1章 小国町及び集落の現況

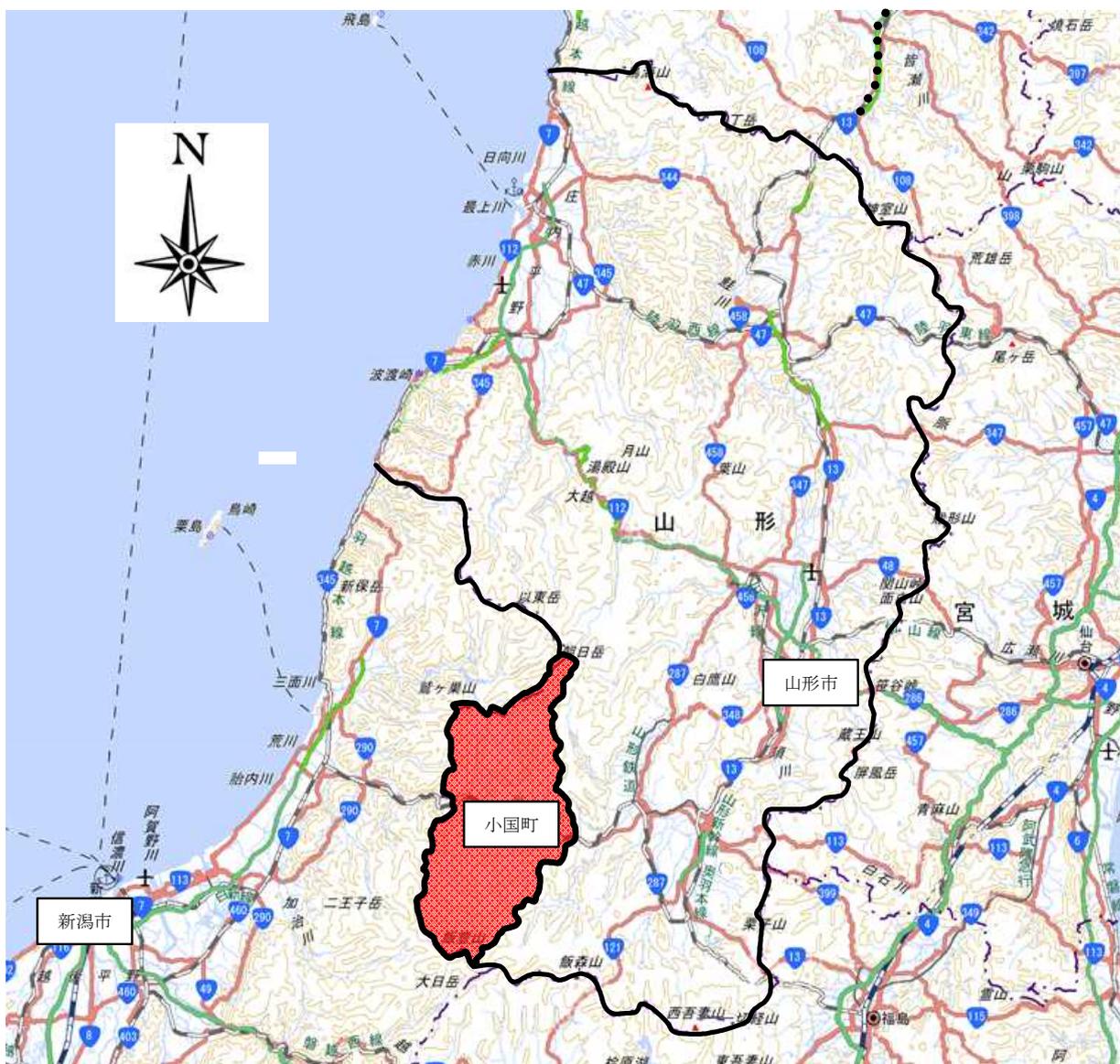
第1章 小国町及び集落の現況

1 小国町の概要

(1) 位置

小国町は、山形県の西南端、新潟県境に位置し、両県の県庁所在地である山形市と新潟市のほぼ中間地点（それぞれ約80km）に位置する。

図表1-1 小国町の位置図



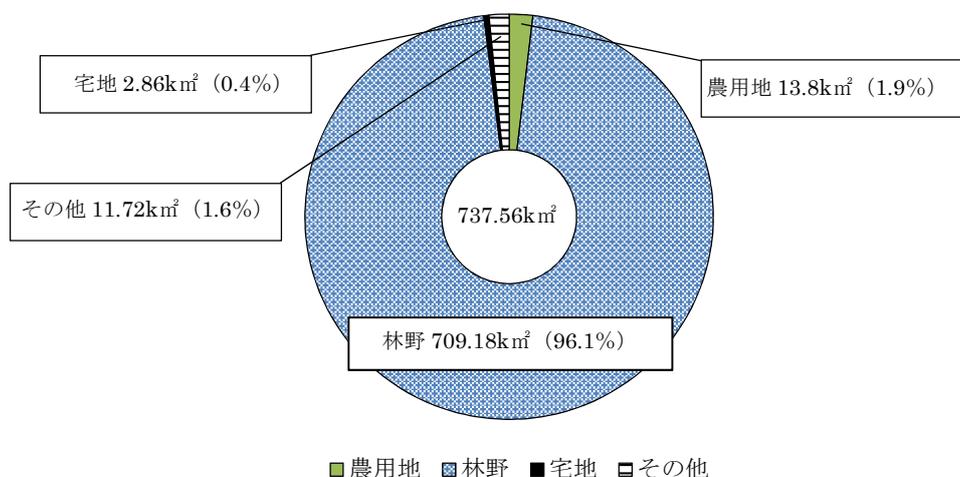
(2) 自然的条件

ア 地形、面積及び土地利用

小国町は、磐梯朝日国立公園に属する、朝日連峰、飯豊連峰に囲まれており、原始景観を残すブナの森を始め、町全体を覆い尽くすように落葉広葉樹林が広がっている。

面積は、東京 23 区 (621 km²) より広大な 737.56 km² で、山形県総面積の 7.9% を占める。土地利用の状況は、森林が 96.1% を占めているのに対して、農用地は 1.9%、住宅地・その他を合わせ 2.0% となっており、国内有数の森林資源を有している。

図表1-2 小国町の土地利用の状況

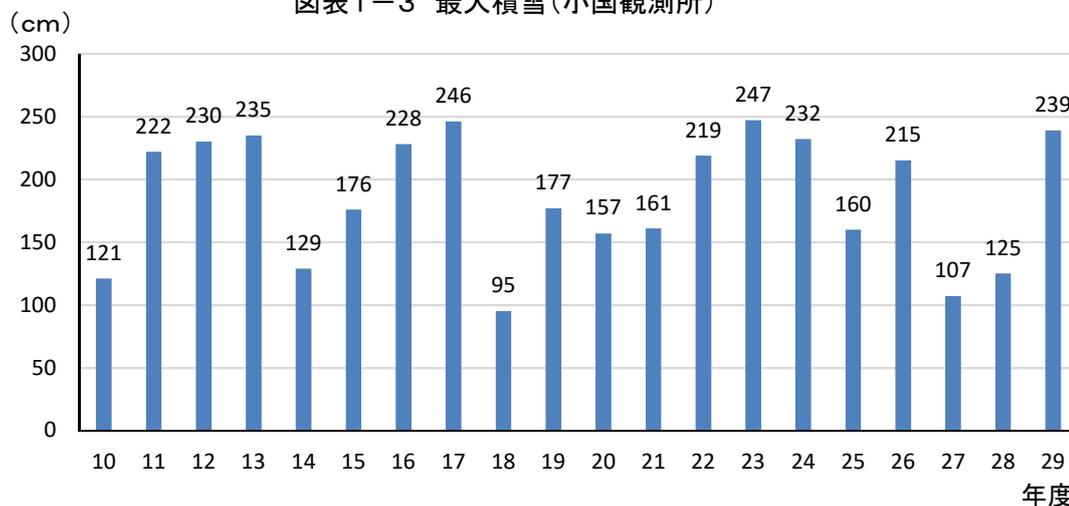


資料:平成 29 年度 土地に関する概要調書報告書

イ 自然条件

日本海側気候に属し、四方を山地丘陵に囲まれているため、盆地特有の気候の面も見せている。また、日照時間の少ない天候が多く、冬季には全国屈指の豪雪をもたらし、積雪は町中心部で 2 m を超える年も珍しくない。

図表1-3 最大積雪(小国観測所)

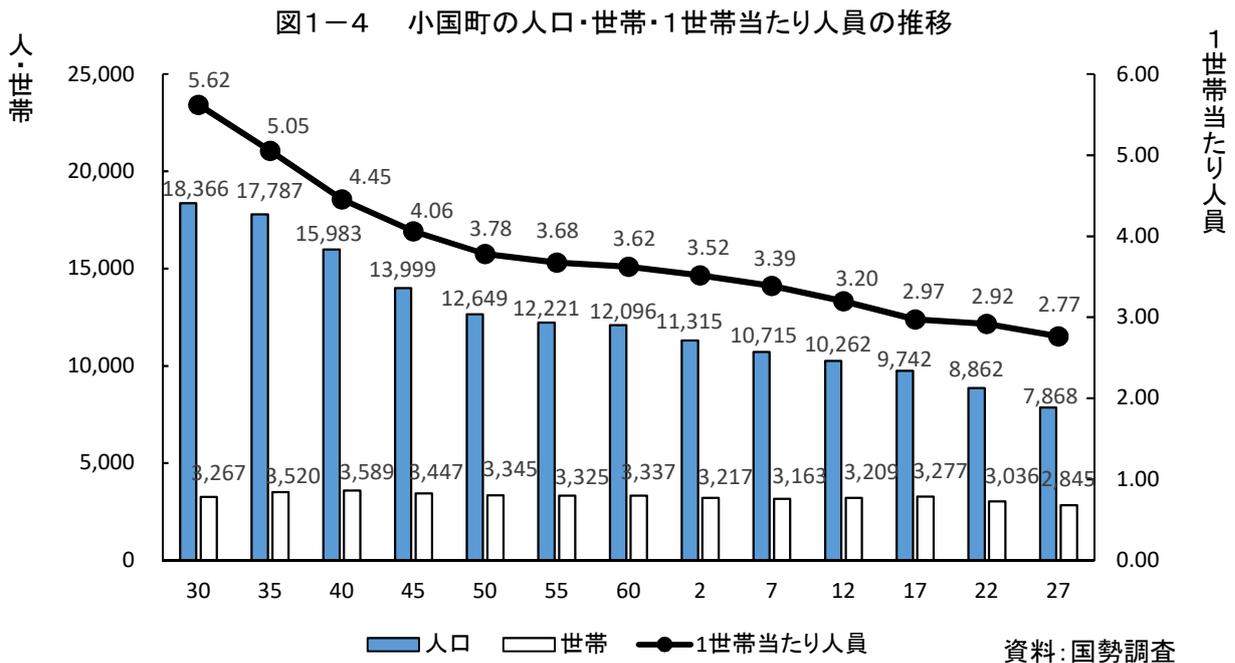


資料:山形地方気象台(小国観測所)気象データ

(3) 人口・世帯

ア 人口・世帯の推移

平成27年の国勢調査では、人口は7,868人、世帯数は2,845世帯となっており、1世帯当たりの人員は2.77人となっている。人口は、昭和30年をピークに減少が続いているが、世帯数は核家族化の進行等によりほぼ横ばいの状態となっている。



図表1-5 小国町・山形県・置賜の人口・世帯・1世帯当たりの人員の比較

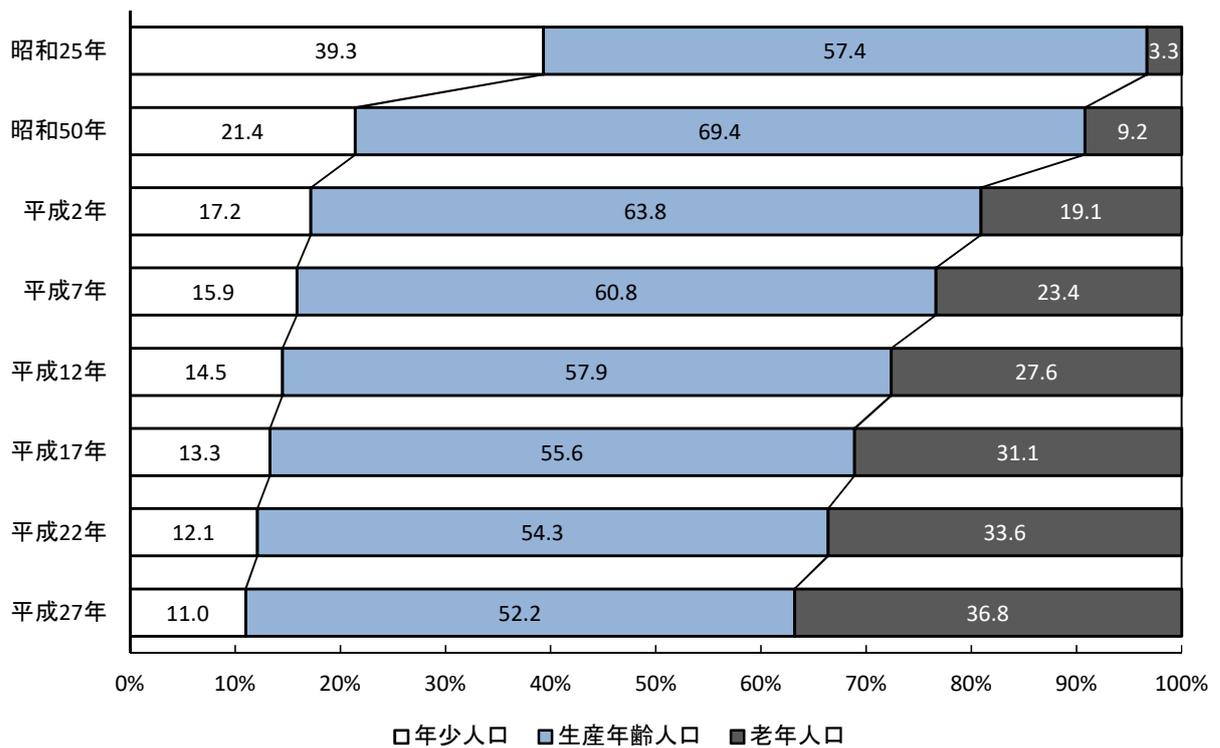
年度	区分	人口		世帯	1世帯当たり人員	
		男	女			
H17	小国町	9,742	4,801	4,941	3,277	2.97
	山形県	1,216,116	584,946	631,170	386,840	3.14
	置賜地域	238,781	116,406	122,375	75,452	3.16
H27	小国町	7,868	3,863	4,005	2,845	2.77
	(H17比較)	△ 1,874	△ 938	△ 936	△ 432	△ 0.21
	山形県	1,123,891	540,226	583,665	393,396	2.86
	(H17比較)	△ 92,225	△ 44,720	△ 47,505	6,556	△ 0.29
	置賜地域	214,975	104,391	110,584	74,030	2.90
(H17比較)	△ 23,806	△ 12,015	△ 11,791	△ 1,422	△ 0.26	

資料：「平成27年国勢調査 人口等基本集計結果報告書」

イ 人口構造

過疎化及び少子高齢化の進行により、年少人口及び生産年齢人口の減少と、老年人口の増加が著しく進んでおり、平成 27 年の高齢化率 36.8%は、県内で 4 番目に高い水準となっている。

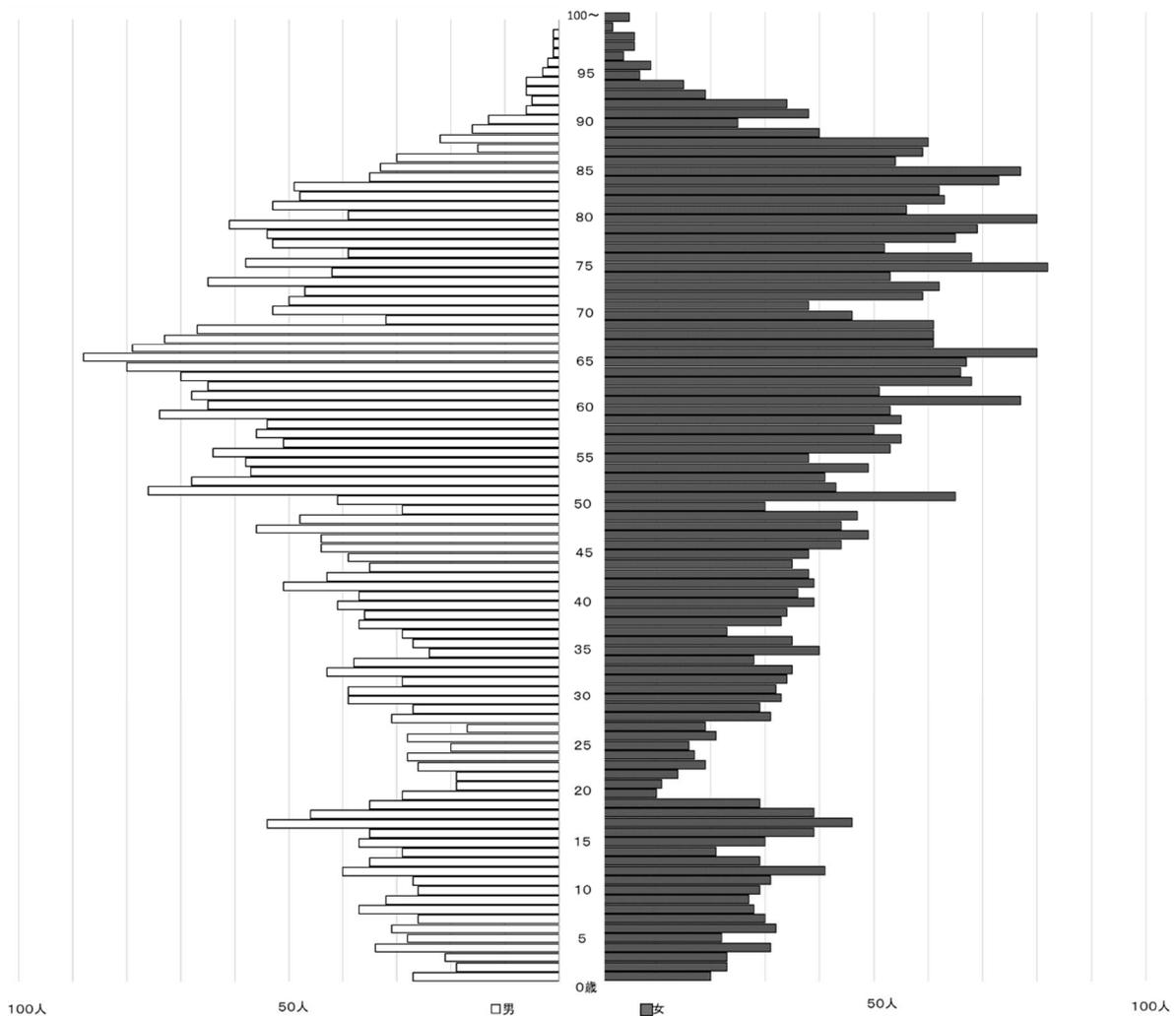
図表1-6 小国町の人口構造



ウ 年齢別人口（人口ピラミッド）

平成 27 年の国勢調査における年齢別人口を見ると、団塊の世代を中心とする 60 代の人口の割合が高く、20～30 代の人口の割合が極めて低い状態となっている。東部地区にある基督教独立学園高等学校の生徒数が影響し 15～18 歳の人口の割合が高くなっているが、全体として、少子高齢化の傾向が著しい。生産年齢人口は全体の 52.2%を占めているが（図表 1－6 参照）、その大半は 55～65 歳が占めている。

図表 1－7 小国町の人口ピラミッド（平成 27 年 10 月 1 日現在）

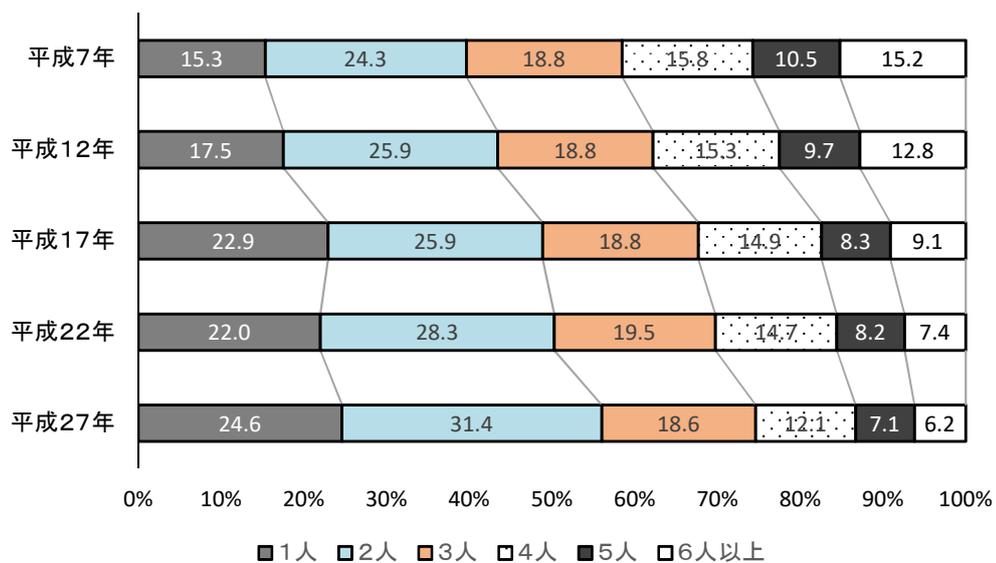


資料：平成27年国勢調査

エ 世帯構造

本町の世帯構造を見ると、核家族化の進行、単身世帯の増加などによって、世帯人員の小規模化が進行しており、平成27年の国勢調査では、1～2人の世帯の割合は全世帯の56%を占めている。

図表1-8 小国町の世帯構造の推移

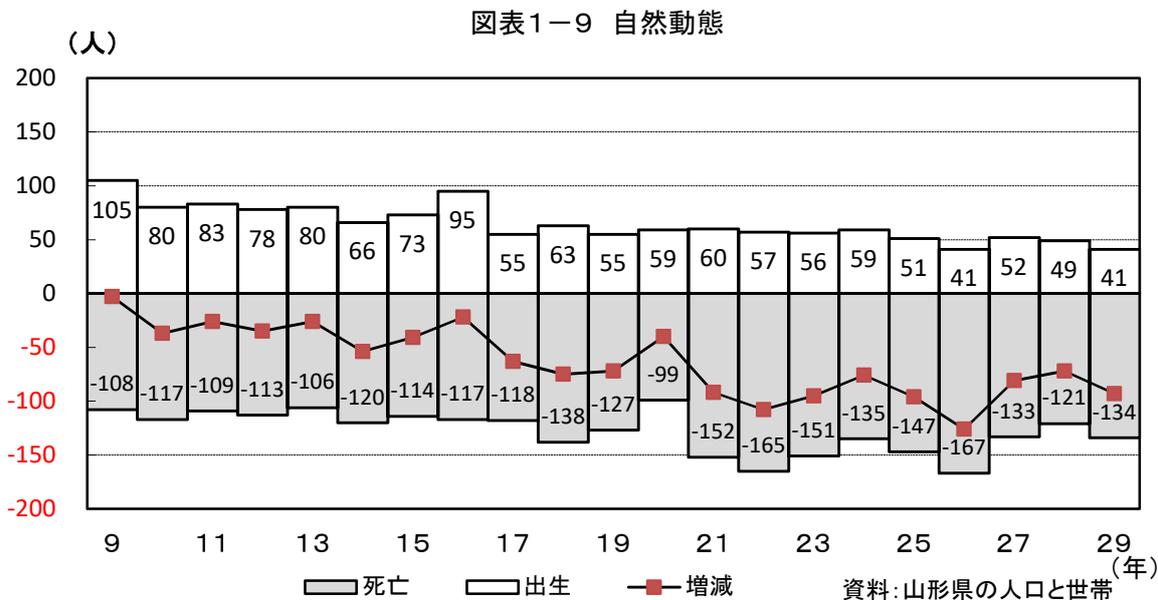


資料:国勢調査

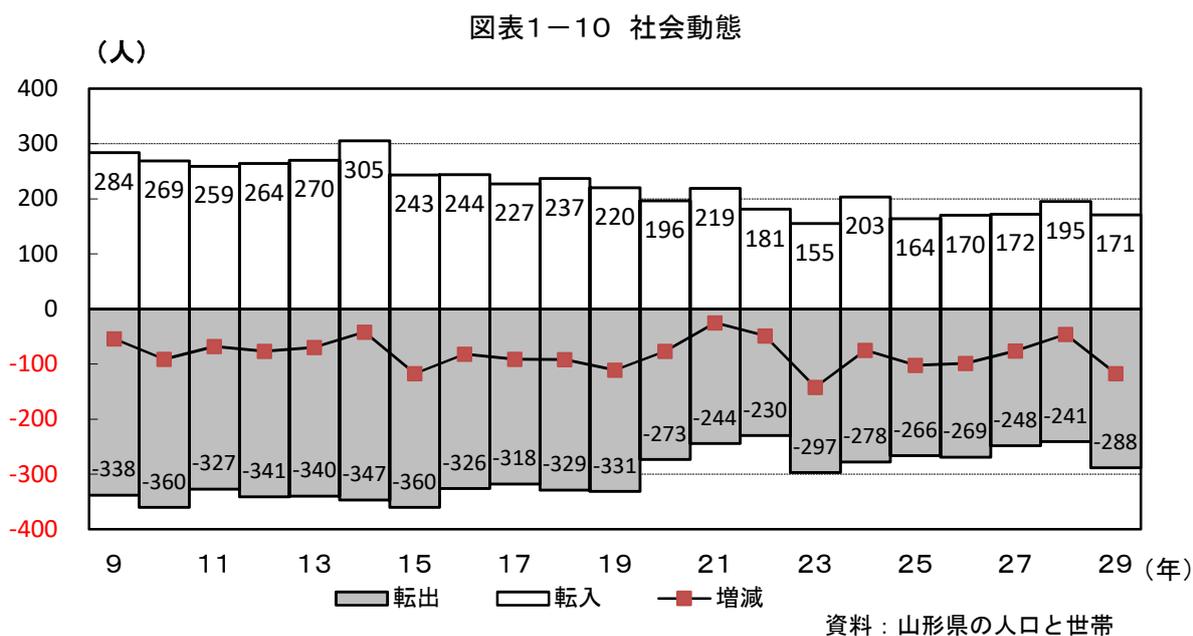
(4) 人口動態

ア 人口動態

自然動態を見ると、死亡者数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。特に出生数は近年40～50人台で推移し、この20年間で半減している。

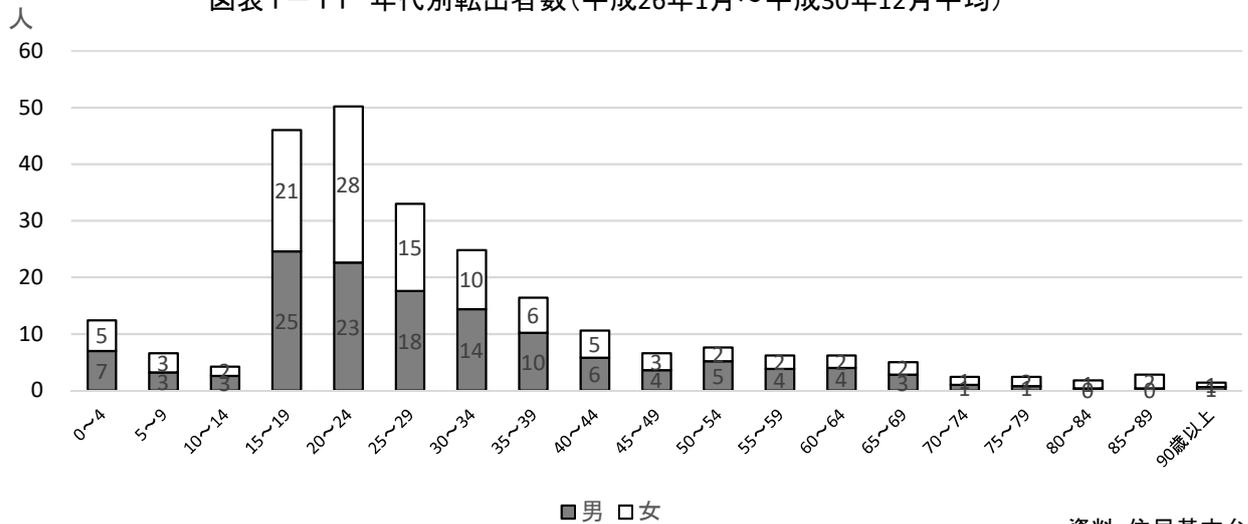


社会動態を見ると、転出者が転入者を上回る社会減の状態が続いている。町内企業の転勤等が大きく影響するが、それ以外に、進学や就職等で転出するケースも多く、出生数の減少と併せて、人口減少の大きな要因となっている。



また、平成26年から平成30年までの5年間に於ける転出者の平均数を年代別で見ると、15歳から34歳までの年代の転出者が突出して多くなっている。就学や就職によるものと思われるが、出生数の減少や地域コミュニティの担い手不足の大きな要因となっている。

図表1-11 年代別転出者数(平成26年1月～平成30年12月平均)

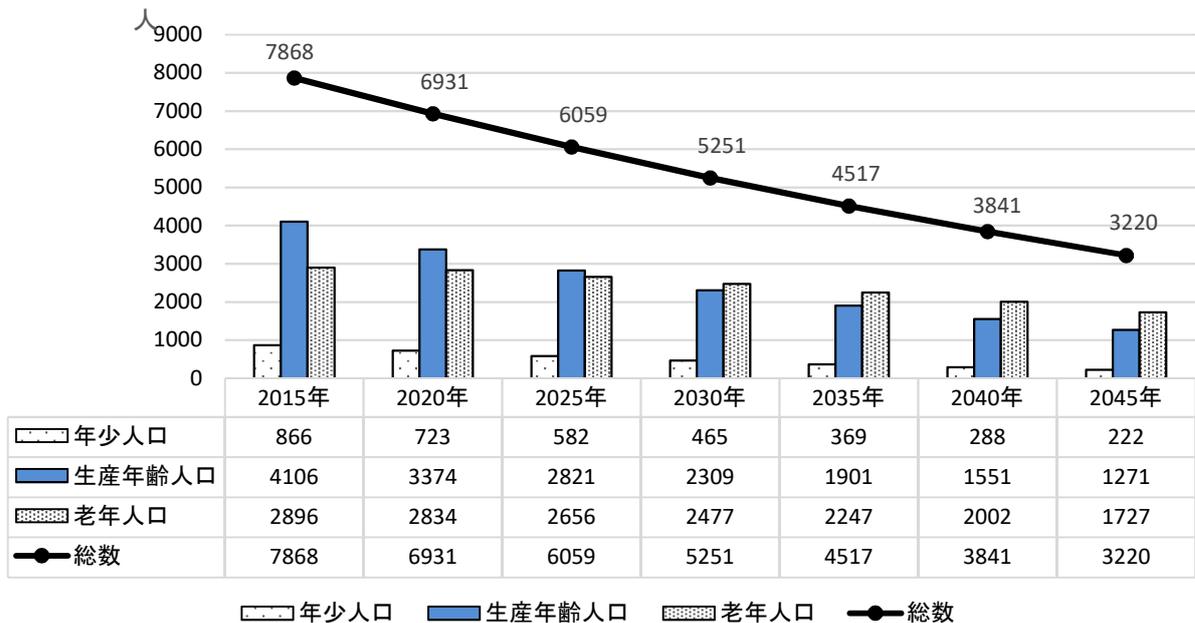


資料:住民基本台帳

(5) 人口予測

国立社会保障・人口問題研究所が平成 30 年に公表した人口推計では、2045 年の小国町の人口は 3,220 人とされ、今後も人口減少が加速していくものとされた。また、2030 年からは、老年人口が生産年齢人口を上回り、高齢化率も 47.2%と、町民のおよそ 2 人に 1 人が 65 歳以上という状況が予想されている。

図表 1-12 人口推計(総数・世代別)



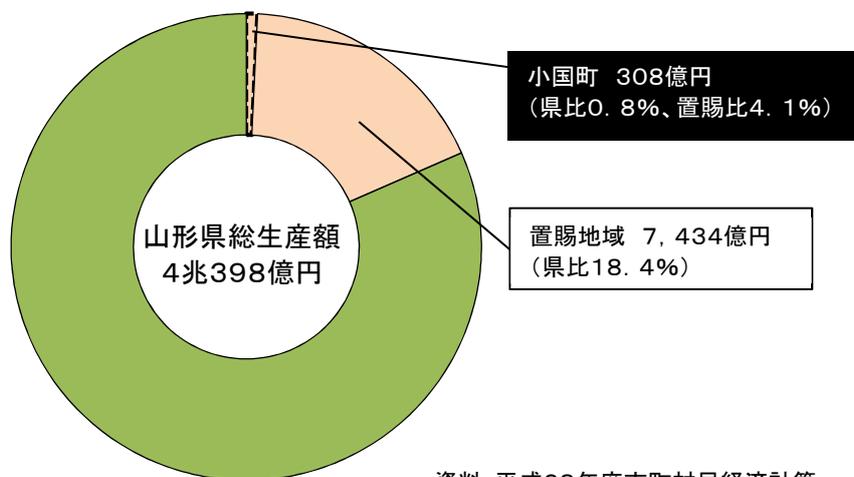
資料:『日本の地域別将来推計人口』(平成 30(2018)年推計)

(6) 経済

ア 総生産額及び一人当たり町民所得

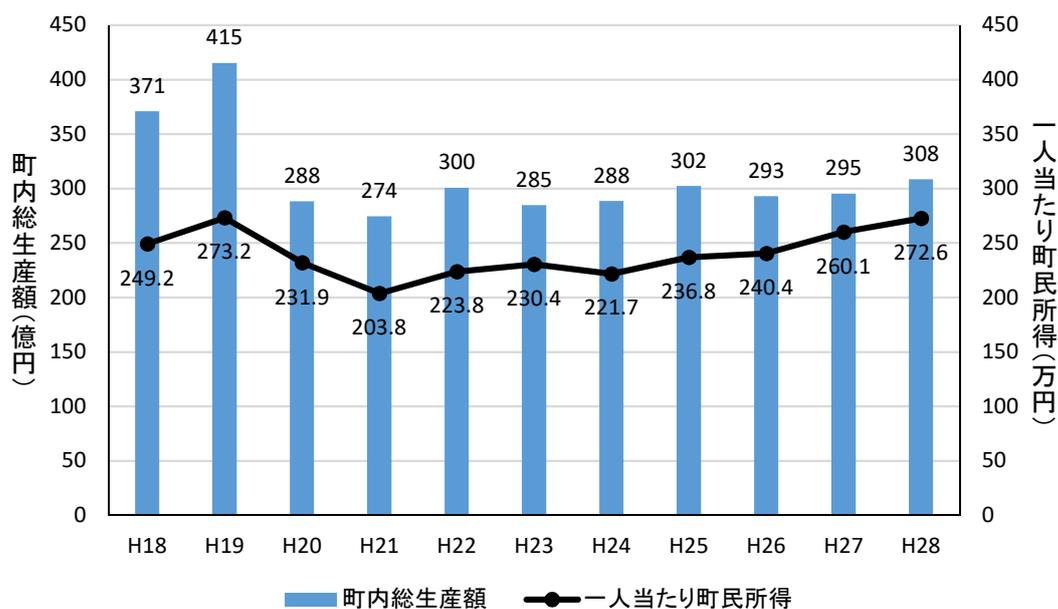
平成 28 年度の山形県の県内総生産額（市町村民所得統計）は 4 兆 398 億円で、このうち置賜地域は 7,434 億円で山形県全体の 18.4%を占めている。小国町の総生産額は 308 億円で、県内総生産の 0.8%を占める。また、平成 28 年度の小国町の一人当たりの町民所得は 272.6 万円となっており、県内では 8 番目（町村部では 2 番目）、置賜地域では米沢市に次いで 2 番目に高い水準にある。

図表 1-13 山形県・置賜地域・小国町の総生産額の状況



資料:平成28年度市町村民経済計算

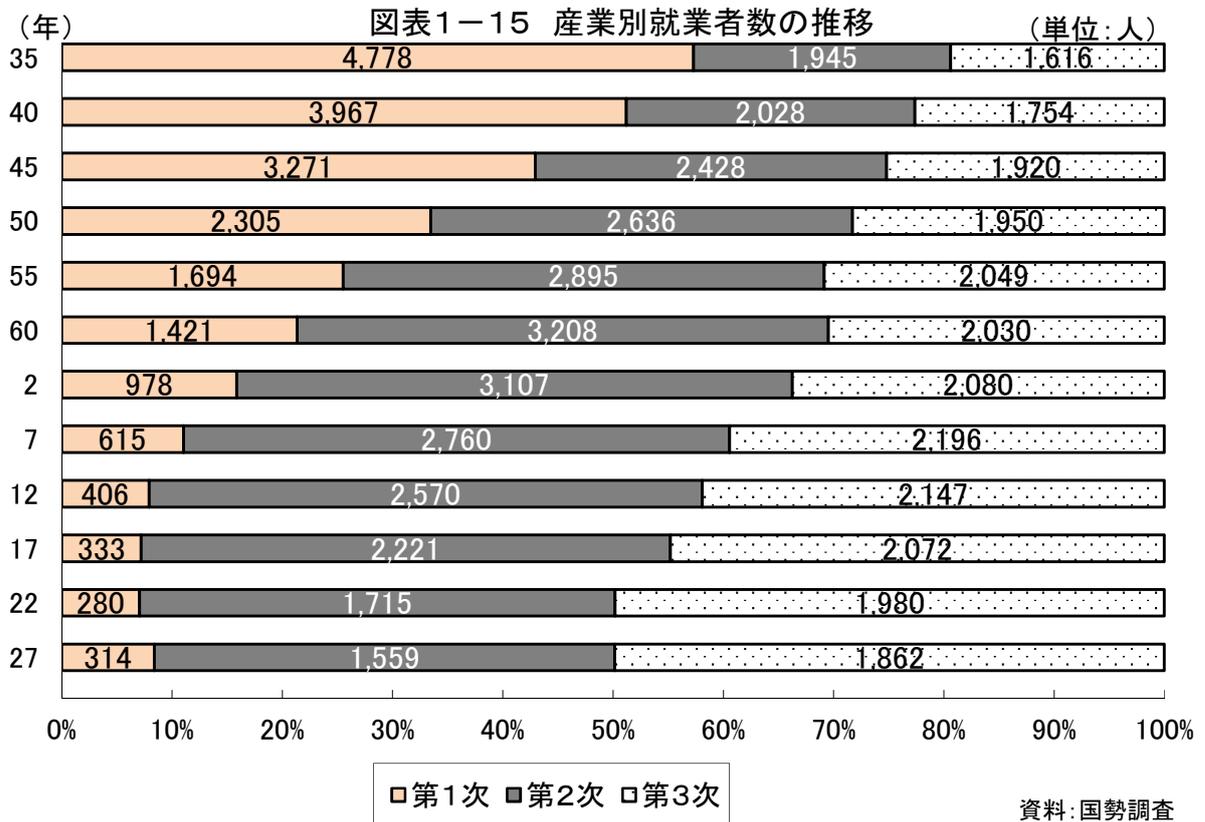
図表 1-14 町内総生産及び一人当たり町民所得の推移



資料:平成28年度市町村民経済計算

イ 就業人口

平成 27 年の国勢調査では、小国町の就業人口は 3,735 人で、第 1 次産業が 314 人 (8.4%)、第 2 次産業が 1,559 人 (41.7%)、第 3 次産業が 1,862 人 (49.9%) となっており、第 2 次産業と第 3 次産業の従事者で 9 割以上を占めている。特に第 2 次産業が主産業となっており、山村にはまれな就業構造となっている。



2 小国町内の集落の状況

(1) 小国町の変遷

ア 町の成り立ち

明治 22 年の市町村制施行により、それまで小国郷を構成していた 59 ヶ村（自然村）が 4 つの行政村に再編され、小国本村、北小国村、南小国村、津川村となった。

昭和 17 年に小国本村が町制を施行し、昭和 29 年に小国町、北小国村、南小国村が合体合併、昭和 35 年には津川村が編入合併され、現在の小国町となった。

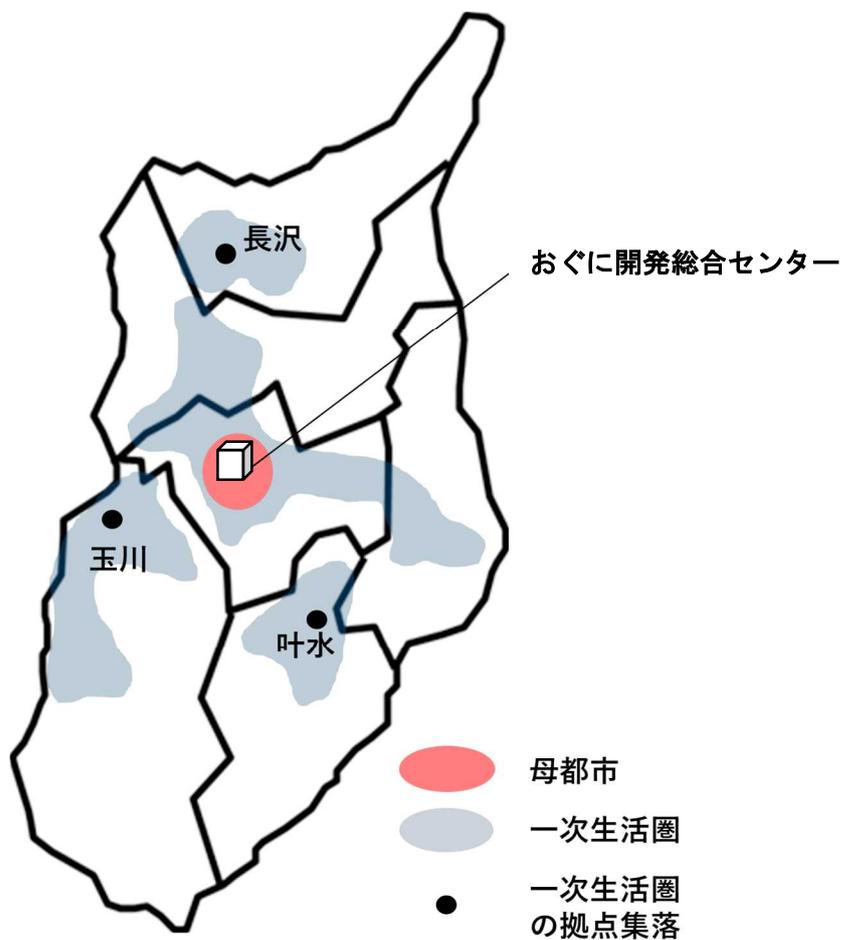
図表 1－16 旧町村の位置



イ 集落再編

小国町では昭和 40 年に、町中心部を母都市とし、旧町村エリアに一次生活圏を形成し町中心部とのネットワーク化を図る「生活圏整備構想」を樹立した。また、昭和 43 年には町中心部に、まちづくりの拠点施設として、おぐに開発総合センターを建設した。これにより、一次生活圏の拠点集落である長沢（北部）、玉川（南部）、叶水（東部）において、総合センターの分館機能を持つ基幹集落センターを始め、駐在所、診療所等の公共施設が集積されるなど、総合的な整備が進められた。

図表 1-17 生活圏整備構想のイメージ



ウ 集落移転

昭和42年8月に発生した羽越水害は小国町に甚大な被害をもたらしたが、これを契機に越戸集落の全戸が町中心部に移転した。他の集落住民からも移転を望む声が出るようになり、町は「小国町農村計画研究会」を設置し、町内の全117集落を対象に集落の実態調査を実施した。この研究会では、積雪量、集落規模、町中心部までの距離など7つの基準を定め、要件に該当する集落を「居住限界集落」と位置付けた。調査の結果、25集落が居住限界集落と診断され、当該集落においては、住民の意思決定があれば、行政が支援する形で集落再編整備を行った。

これらの結果、昭和43年から昭和52年の10年間で、10集落、70戸が集団移転を行った。

図表1-18 集落移転の実績

移転年	集落名	旧町村名	集落（移転）戸数
昭和43年	越戸	旧小国町	5戸
昭和45年	綱木	旧小国町	9戸
	上滝	旧津川村	16戸
	下滝	旧津川村	20戸
昭和46年	豆納	旧津川村	2戸
	赤沢	旧津川村	4戸
	高野	旧津川村	3戸
昭和48年	綱川	旧津川村	3戸
	屋敷	旧津川村	5戸
昭和52年	森残	旧津川村	3戸
	計10集落		70戸

資料：農山村地域におけるムラ機能の維持・保全に関する研究

(2) 現在の集落の状況

ア 様々な区域設定と基礎集落の関係

小国町では、町を構成する原単位である集落のほか、行政区、駐在区、農業振興組合、公民館、体育協会、消防団など、それぞれの役割や機能によって複層的に区割りされていることに加え、中心主体が地区ごとに異なっている。

なお、本調査研究において、集落とは下記図表の「大字」を、コミュニティとは「旧小学校区」を概ね示している。

図表 1-19 基礎集落と各区分構成

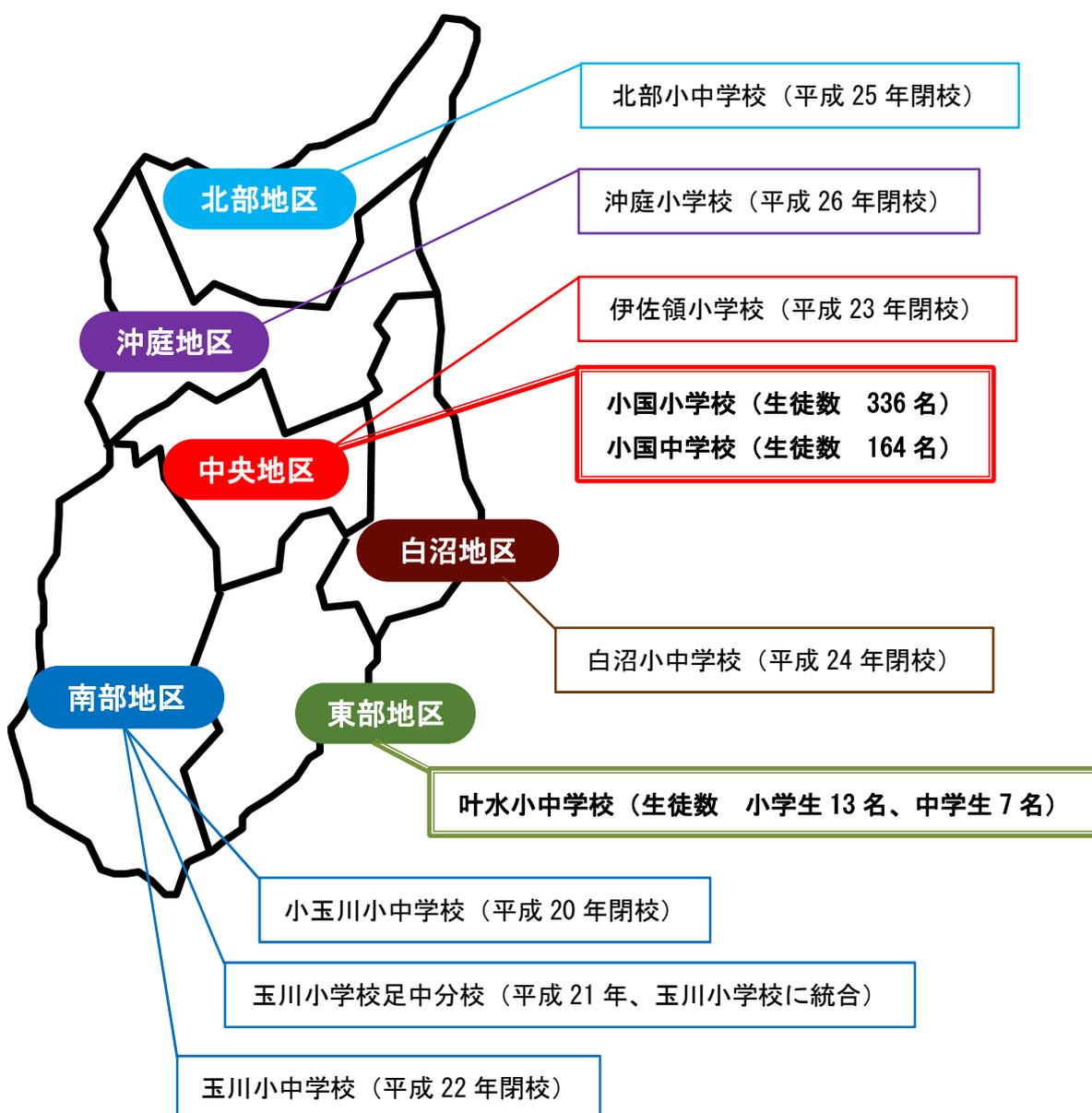
旧町村	大字	区域名	平成27年 国勢調査		農業振興組合	行政区	駐在区	公民館	旧小学校区	体育協会	消防団			
			世帯数	人口										
北小国村	五味沢	徳網	13	35	朝日	樋倉徳網	五味沢	—	北部小	北部	第6分団 第2部			
		樋倉	—	—	—									
		五味沢	22	63	五味沢			五味沢				五味沢		
		出戸	13	48	出戸			—						
	石滝	石滝	19	50	石滝	石滝	石滝	石滝						
		中野	—	—	—	—	—							
	小股	小股	12	45	三ヶ字	三ヶ字	三ヶ字	小股						
	太鼓沢	太鼓沢	10	25				—						
	鷺	鷺	3	12				—						
	焼山	焼山	6	19	四ヶ字	六ヶ字	六ヶ字	—						
	荒沢	荒沢	13	34				—						
	樋の沢	樋の沢	3	10				—						
	中島	中島	10	29				—						
	折戸	折戸	7	19	折戸	—	—	—						
	入折戸	入折戸	1	2				—						
	長沢	長沢	21	74	長沢	越長	越長	長沢						
	越中里	越中里	24	86	越中里			越中里						
	栃倉	栃倉	10	20	今市	今市	今市	—						
	今市	今市	14	42				今市						
	松崎	松崎	1	8				—						
尻無沢	尻無沢	21	69	尻無沢	尻無沢	尻無沢	尻無沢							
網代瀬	網代瀬	2	4	中里網代瀬	—	—	—							
舟渡	中里	34	93				舟渡 窪	舟渡	舟渡	舟渡				
	窪	—	—				舟渡宮蟹							
	宮崎	32	102				舟渡入山							
	入山						舟渡宮蟹							
蟹沢	—	—	—											
南小国村	市野沢	市野沢	6	15	市野沢	市野沢	市野沢	—	玉川小 足中分校	南部	第7分団 第3部			
	足水中里	足水中里	6	12	足水中里	足水中里	足水中里	—						
		菅沼	2	5				—						
	百子沢	百子沢	3	6	百子沢	百子沢	百子沢	百子沢						
	滝倉	滝倉	0	0	樽口	滝倉	樽口	—						
		樽口	8	26				樽口						
	足野水	足野水	13	32	足野水	足野水	足野水	足野水						
	玉川	玉川	20	39	玉川	玉川	玉川	玉川						
		下新田	15	39	新田	玉川新田	玉川新田	玉川新田						
		玉川新田												
	片貝	片貝	15	46	片貝	片貝	片貝	片貝						
		向片貝												
	中田山崎	中田山崎	10	25	中田山崎	中田山崎	中田山崎	中田山崎						
玉川中里	玉川中里	7	20	玉川中里	玉川中里	玉川中里	玉川中里							
泉岡	泉岡	10	25	泉岡	泉岡	泉岡	泉岡							
小玉川	小玉川	18	47	小玉川	小玉川	小玉川	小玉川							
	長者原	15	51	長者原	長者原	長者原	長者原							
津川村	沼沢	沼沢	29	69	沼沢一	沼沢一	沼沢一	沼沢	白沼小	白沼	第8分団 第1部			
		間瀬	41	120								沼沢二	沼沢二	沼沢二
		間瀬	4	10								間瀬	間瀬	(沼沢に含む)
	白子沢	白子沢	16	49	白子沢	白子沢	白子沢	白子沢						
		桜	—	—	—	—	—	—						
	叶水	沢中	0	0	上叶水一	上叶水	上叶水	上叶水						
		土尾	27	75							上叶水二			
		山崎												
		小叶水	14	36							—			
	二渡戸	5	19	下叶水	下叶水	下叶水	—							
下叶水	13	92												
市野々	市野々	0	0	市野々	市野々	市野々	市野々							
大石沢	大石沢	19	50	下大石沢	下大石沢	下大石沢	下大石沢							
	胡桃平	8	32	上大石沢	上大石沢	上大石沢	上大石沢							
新股	新股	12	34	新股	新股	新股	新股							
河原角	河原角	8	24	河原角	—	河原角	河原角							
西滝	西滝	0	0											
—	—	0	0											
東滝	東滝	0	0											

旧町村	大字	区域名	平成27年 国勢調査		農業振興組合	行政区	駐在区	公民館	旧小学校区	体育協会	消防団				
			世帯数	人口											
小国町	金目	金目	9	19	金目	金目		—	沖庭小	沖庭	第5分団 第1部				
	古田	古田	32	80	古田	古田	古田	古田							
	若山	若山	17	73	若山		若山								
	針生	針生	29	73	館	館	館	館							
	新屋敷	新屋敷	10	35	針新										
	貝少	貝少	8	19	貝少										
	増岡	舟場	10	26	館に含む										
	小渡	小渡	11	29	館に含む	小渡	小渡	小渡							
	伊佐領	伊佐領	伊佐領	16	51	小渡	小渡	小渡				小渡	伊佐領小	東南部	第3分団 第2部
		伊佐領	伊佐領	33	88	伊佐領	伊佐領	伊佐領				伊佐領			
		伊佐領	伊佐領	20	50	伊佐領	伊佐領	伊佐領	伊佐領						
	伊佐領	伊佐領	20	58	伊佐領	伊佐領	伊佐領	伊佐領							
	網木箱口	網木箱口	0	0	網木箱口	網木箱口	網木箱口	網木箱口	大宮	大宮	大宮				
	大宮	大宮	22	58	大宮	大宮	大宮	大宮							
	増岡	増岡	22	58	下林	大宮	大宮	大宮							
		増岡	22	58	下林										
		増岡	22	58	下林										
	湯の花	湯の花	7	19	横道	増岡	増岡	(大宮に含む)							
	湯の花	湯の花	28	84	横道										
	西	西	20	49	湯の花	増岡	西	西				—			
		西	31	89	湯の花										
		西	19	56	西										
		西	1	3	小芦五										
	北	北	34	34	若竹寮	北	北	北							
		北	61	178	小芦一										
		北	65	171	北										
	田沢頭	田沢頭	67	197	旭町	旭町	旭町	旭町	北	北	北				
	小国町	小国町	33	88	田沢頭	田沢頭	田沢頭	田沢頭	田沢頭	田沢頭	田沢頭				
	栄町	栄町	75	215	小国町一 小国町二	小国町一 小国町二	小国町一 小国町二	小国町一 小国町二	小国小	町岩西	第2分団 第1部				
	緑町	緑町	55	136	栄町一 栄町二	栄町一 栄町二	栄町一 栄町二	栄町一 栄町二							
	岩井沢	岩井沢	148	365	駅前一 駅前二	駅前一 駅前二	駅前一 駅前二	駅前一 駅前二							
	岩井沢	岩井沢	234	685	緑町一 緑町二	緑町一 緑町二	緑町一 緑町二	緑町一 緑町二							
	兵庫館 一～三丁目	兵庫館	88	260	地蔵町	地蔵町	地蔵町	地蔵町	—	町岩東	第2分団 第2部				
71			191	岩井沢一 岩井沢二	岩井沢一 岩井沢二	岩井沢一 岩井沢二	岩井沢一 岩井沢二								
岩井沢	上岩井沢	27	86	平林	平林	平林	平林	兵庫館一	兵庫館一	兵庫館一					
小国小坂町	小国小坂町	321	798	兵庫館一	兵庫館一	兵庫館一	兵庫館一	兵庫館二	兵庫館二	兵庫館二					
		(県職員AP)	30	50	—	—	—	—	—	—	—				
町原	町原	44	113	上岩井沢	上岩井沢	上岩井沢	上岩井沢	上岩井沢	上岩井沢	上岩井沢					
芹出	芹出	4	7	坂町一 坂町二	坂町一 坂町二	坂町一 坂町二	坂町一 坂町二	小坂町	小坂町	第1分団 第1部・第2部					
松岡	松岡	22	64	坂町三 坂町五	坂町三 坂町五	坂町三 坂町五	坂町三 坂町五								
朝籬	朝籬	11	27	本町一 本町二	本町一 本町二	本町一 本町二	本町一 本町二								
杉沢	杉沢	14	36	本町三	本町三	本町三	本町三								
新原	新原	15	37	—	—	—	—								
大滝	大滝	25	68	—	—	—	—								
種沢	種沢	18	46	—	—	—	—								
黒沢	黒沢	17	49	—	—	—	—								
幸町	幸町	35	110	—	—	—	—								
宮の台	宮の台	90	210	—	—	—	—								
東原	東原	45	113	—	—	—	—	—	—	—					
あけぼの	あけぼの	78	222	—	—	—	—	—	—	—					
あけぼの	あけぼの	118	408	—	—	—	—	—	—	—					
合計		2,845	7,868												

イ まちづくりにおける区域設定

これまでのまちづくりにおいては、町内を中央地区、沖庭地区、北部地区、南部地区、東部地区、白沼地区の6つの地区に分けし、各地区の地形や歴史、文化などをもとにテーマを設け、地域づくりを進めてきた。また、この地区割りは主に旧小学校区を基本としており、小学校を中心にコミュニティが形成されていた。

図表1-20 まちづくりにおける設定区域と小中学校の状況（生徒数は令和元年5月1日現在）



(3) 現在の集落の実態

これまで小国町では、生活圏整備構想を始め、駐在員制度の導入など、全国に先駆けて集落対策を進めてきた。また、山村振興法に基づく振興山村の指定や、旧過疎地域対策緊急措置法に基づく過疎地域の指定を受け、これらの法制度を活用した各種山村対策や過疎対策を実施してきた。しかしながら前述のように、人口減少と少子高齢化は急激に進み、集落の維持のみならず、町内経済や社会保障など各分野にも大きな影響が及んでいる。

各集落の状況を見ると、高齢化と担い手不足が今後もより一層深刻となることが予想され、これまで実施してきた共同作業や祭りの継続が困難になるほか、農地や山林の管理、除雪の維持、災害時の対応など、様々な分野で課題や不安が生じている。

これらの課題や集落存亡の危機に対応すべく、住民・地域組織・行政・外部人財等が新たな機能を集落や地区に取り入れ、コミュニティ機能維持に向けた新たな環境づくりの方向性を探り、町内全域で展開していく必要がある。

図表 1-21 集落の現況写真

